



**Data**

監督：ジム・シェリダン  
 原作：セバスチャン・バリー『The Secret Scripture』  
 出演：ルーニー・マーラ/ヴァネッサ・レッドグレイヴ/エリック・バナ/ジャック・レイナー/テオ・ジェームズ

■■■ショートコメント■■■

◆公式ホームページによれば、本作の「イントロダクション」は次の通りだ。

『マイ・レフトフット』(89) や『父の祈りを』(93) で知られる巨匠ジム・シェリダンが、アイルランドの人気作家セバスチャン・バリーの COSTA 賞※を受賞した同名小説を映画化。

物語はアイルランドを舞台に、40年にわたり病院に収容されているある老女の知られざる過去が、1人の医師と1冊の聖書によって明らかになっていくところからはじまる。1940年代第二次世界大戦時、激動の時代に翻弄されながらも、たった一つの愛を貫いた女性の生き様と長きにわたり封印されてきた衝撃の真実が、現在と過去の時間軸を行き来しながら壮大なスケールで描かれるミステリアスな大河ロマンだ。主演として若かりしローズを演じたのは、『キャロル』(15) で第68回カンヌ国際映画祭女優賞を受賞し、名実共にトップ女優となったルーニー・マーラ。もう一人の主演である老年のローズを演じたのは、これまでにカンヌ国際映画祭女優賞受賞、アカデミー賞®助演女優賞受賞の功績を持つ、イギリスを代表する大女優ヴァネッサ・レッドグレイヴ。そのほか、エリック・バナ、テオ・ジェームズ、ジャック・レイナーなど、ベテランから次世代の注目株まで豪華なキャスト陣が脇を固め、この壮大な物語に奥行と深みをもたらしている。

主人公ローズはなぜ長い間病院で過ごしてきたのか、なぜ聖書に秘かに日記を書き綴ってきたのか、一体彼女にはどんな過去があるのか——半世紀のときをこえて徐々に紐解かれる記憶は、我々に思いがけない驚きと胸を震わす感動をもたらしてくれる。

※英国で権威のある文学賞

◆公式ホームページによれば、本作の「ストーリー」は次の通りだ。

取り壊しが決まった聖マラキ病院。

転院する患者たちの再診のために病院を訪れた精神科医スティーヴン・グリーン（エリック・バナ）は、病院で40年間もの長い時間を過ごしてきたローズ・F・クリア（ヴァネッサ・レッドグレイヴ）を見ることになる。彼女は自分の赤ん坊を殺した罪を背負っていた。しかしローズは、その罪を否認し続け、自身を本名とは別の「ローズ・マクナルティ」と名乗り続けていた。

グリーン医師は、ローズが大切にしている1冊の聖書の存在を知り、彼女の過去に興味を持ち始める。ローズは何十年にもわたって、聖書のなかに秘かに日記を書き綴っていたのだ。そして彼女は日記を辿りながら半世紀前の記憶を遡り、グリーン医師の前に自分の人生を語り始める――

◆取り壊しのため移転が決まった、アイルランド西部にある精神病院。そこに赤ん坊殺しの罪で「精神障害犯罪者」として40年間も収容されていた老女ローズ（ヴァネッサ・レッドグレイヴ）が、再検査のためにやってきた精神科医グリーン（エリック・バナ）の求めに応じて、「昔話し」を開始すると、スクリーン上には一転して若き日の美しきローズ（ルーニー・マーラ）が登場！

そのパターンは『タイタニック』（97年）と同じだが、ジャックとローズとの純愛劇が単純だけれどもすばらしかった『タイタニック』に比べて、本作は1940年当時ナチスドイツと戦っていたイギリスとアイルランドとの関係（アイルランドの立ち位置）がよくわからないから、ストーリーも少しわかりづらい。ローズの恋人となるアイルランド人のマイケル（ジャック・レイナー）が英国空軍に志願したら、なぜ裏切り者にされるの・・・？

◆ちょっと男好きのする女はよく「魔性の女」と呼ばれ、『タイタニック』におけるローズも、ジャックにヌードのデッサンを描かせたところから婚約者の貴族キヤルにはそんな目で見られていたが、それは本作のローズも同じ。叔母の経営するカフェで働き始めたローズは、スターカーのようにつきまとう男ゴント（テオ・ジェームズ）をなぜハッキリ突き放さないの？彼女のセリフを聞いていると、付きまとわれるうとうとしきの中にも、ゴントに対する興味と関心が・・・？さらにゴントが神父サマだと知ると一種の信頼感も・・・？本作に見るルーニー・マーラの演技力は立派なものだが、そこらの微妙な女ゴコロが私にはイマイチわからないだけに、人目を気にする叔母から一人町はずれの小屋に転居させられたローズが、ゴントとマイケルという2人の男の間で思いこ揺れ動くサマもイマイチ理解できない。

◆ましてや、英国空軍の戦闘機乗りになったマイケルと束の間の隠れ家生活を楽しむストーリーがそもそも出来すぎ（？）なら、マイケルが地元の男たちに殺されてしまうという

展開も、一体なぜ？さらに、マイケルとの子供を身ごもったローズがゴースト神父の「意見書」によって精神病院に強制入院させられたり、大きなお腹を抱えたまま精神病院を逃げ出したローズが、海を泳いで渡った岸辺で子供を産み落としたうえ、その赤ん坊を石で撲殺するというストーリー展開はあまりに意外！40年後の今になってグリーン医師に打ち明けるローズの弁解は「へその緒を切っただけ」ということだが、さてその真相は・・・？

◆本作のチラシには、「ルーニー・マラー×ヴァネッサ・レッドグレイヴW主演！アカデミー賞ノミネート監督ジム・シェリダン、5年ぶり待望の新作！」の文字が躍っている。その原作も名作らしいし、本作は2017年アイルランド・アカデミー賞の2美術賞とオリジナル音楽賞を受賞しているらしい。さらに「本当に映画向きの作品」とジム・シェリダン監督を魅了した原作のタイトルは「The Secret Scripture」で、本作の原題も同じだ。ジム・シェリダン監督はその原作の映画化にあたってはナレーションに物語を要約させ、過去のシーンを数ヶ月間に、現在のシーンを四日間だけに限定して、物語に緊張感と迫力を持たせるようにしたそう。私はそれは成功していると思うのだが、いかんせん本作のバックグラウンドやローズのあまりにも破天荒な行動に納得できないだけに、少し評価は低い。さて、あなたの評価は・・・？

2017（平成29）年2月8日記